

「いちばん暮らしやすいまち」

西宇部をめざして

西宇部地区まちづくり計画



西宇部地区どんど焼き

令和4年3月

西宇部地区コミュニティ推進協議会

— 目次 —

	P
西宇部地区まちづくり計画について	1
1 計画策定の背景	
2 計画の目的	
3 計画の見直し	
第1章 西宇部地区の概要	2
1 地区の特性	
2 地区の現状	
3 人口の推移	
第2章 西宇部地区の現状と課題	4
1 現状と課題	
第3章 まちづくりの方向性と計画	5
1 柱建て	
2 具体的な行動	
(1) みんなが暮らしやすいまちづくり	
(2) 子ども達が健やかに育つまちづくり	
(3) 健康づくりに取り組むまちづくり	
(4) 活力のあるまちづくり	
(5) 安心・安全なまちづくり	
第4章 計画の推進体制	11

1 計画策定の背景

少子高齢化や人口の減少、核家族化といった現象が全国的に進み、この西宇部地区でも例外ではなく、一層の深刻化が進んでいます。

一方、私たちが毎日生活する地域社会においては、以前から人間関係の希薄化が危惧されています。

西宇部地区はこうした高齢化や核家族化、地域の人間関係の希薄化に対して昭和 61 年からスタートした「福祉の輪づくり運動」にいち早く取り組むとともに地区や自治会でも住民間の交流促進を図るために様々な行事などを開催して安心して暮らせる地域づくりを目指してきたところです。

しかし、少子高齢化やそれに伴うさまざまな課題の進行は思うより早く、より効率の良い効果的な取り組みが必要になってきました。

これらの課題に対し、住民と各団体が一丸となって取り組み、誰もが住みやすく、いきいきとして健康で安心して暮らせる地域づくりを進めるため、「西宇部校区まちづくり計画」を平成 29 年 5 月に策定しましたが、この度その後の地域の実情の変化等に伴い、計画の改定を行いました。

2 計画の目的

- (1) 少子高齢化、人口減少、核家族化が進行する中で、誰もが住みやすくいきいきとして健康で安心して暮らせる地域を目指します。
- (2) 地域の課題やまちづくりの方向性などを地域全体で共有し、課題の解決・軽減に向け一丸となって取り組んでいくためのよりどころとします。
- (3) SDGs※（持続可能な開発目標）の実現について、健康づくりや居住環境の整備などに地区として組みます。

3 計画の見直し

情勢の変化や住民ニーズの変化などに対応するため、適時見直しを行います

※SDGs（持続可能な開発目標）

人々が、この地球で暮し続けられる「持続可能な世界」を実現するため、2030 年までに達成する必要があるとして立てられた具体的な目標のこと。

第1章 西宇部地区の概要

1 地区の特性

西宇部地区は市の西部に位置しており、南側は厚南、東側は藤山、北側は厚東の各地区と接し、西側は山陽小野田市と隣接しています。

昭和40年代からJR山陽本線宇部駅の北側で宅地開発が相次ぎ、厚南校区北部の人口が急激に増加したことから、北東部の高台に小学校が整備されて昭和56年に西宇部小学校校区が誕生しましたが、厚南校区から分離独立し正式に西宇部校区として発足したのは平成6年です。その後、令和2年度より校区を地区と称するようになりました。

このような経緯を経て、西宇部地区には次のような特性があります。

- 各自治会は当時開発された住宅団地毎に構成されたものが多くあります。
- 第2期第3期と小規模な宅地開発もあり若い世代が順次入りましたが、それらの世代も年代が徐々に高齢層となっていることにより、地区全体の高齢化が進んでいます。
- 住宅団地で構成された自治会も、従前からの自治会にもそれぞれの特色があり、課題も異なります。

2 地区の現状

(1) 人口・男女別人口（令和4年3月31日現在）

総数	7,133人	男性	3,390人	女性	3,743人
----	--------	----	--------	----	--------

(2) 自治会数 1区～16区の15自治会（8区は業者管理）

(3) 土地面積 5.29k㎡（宇部市全体 286.65k㎡）令和4年3月31日現在

3 人口の推移

(1) 地区の人口・年代階層別人口

	総人口 (人)	高齢化率 (%)	年少人口(人)	生産年齢人口(人)	高齢者人口(人)
			0～14歳	15～64歳	65歳以上
平成22年	8,130	23.78	996	5,201	1,933
平成27年	7,725	30.39	861	4,516	2,348
令和4年	7,133	37.54	666	3,789	2,678

(3月31日現在)

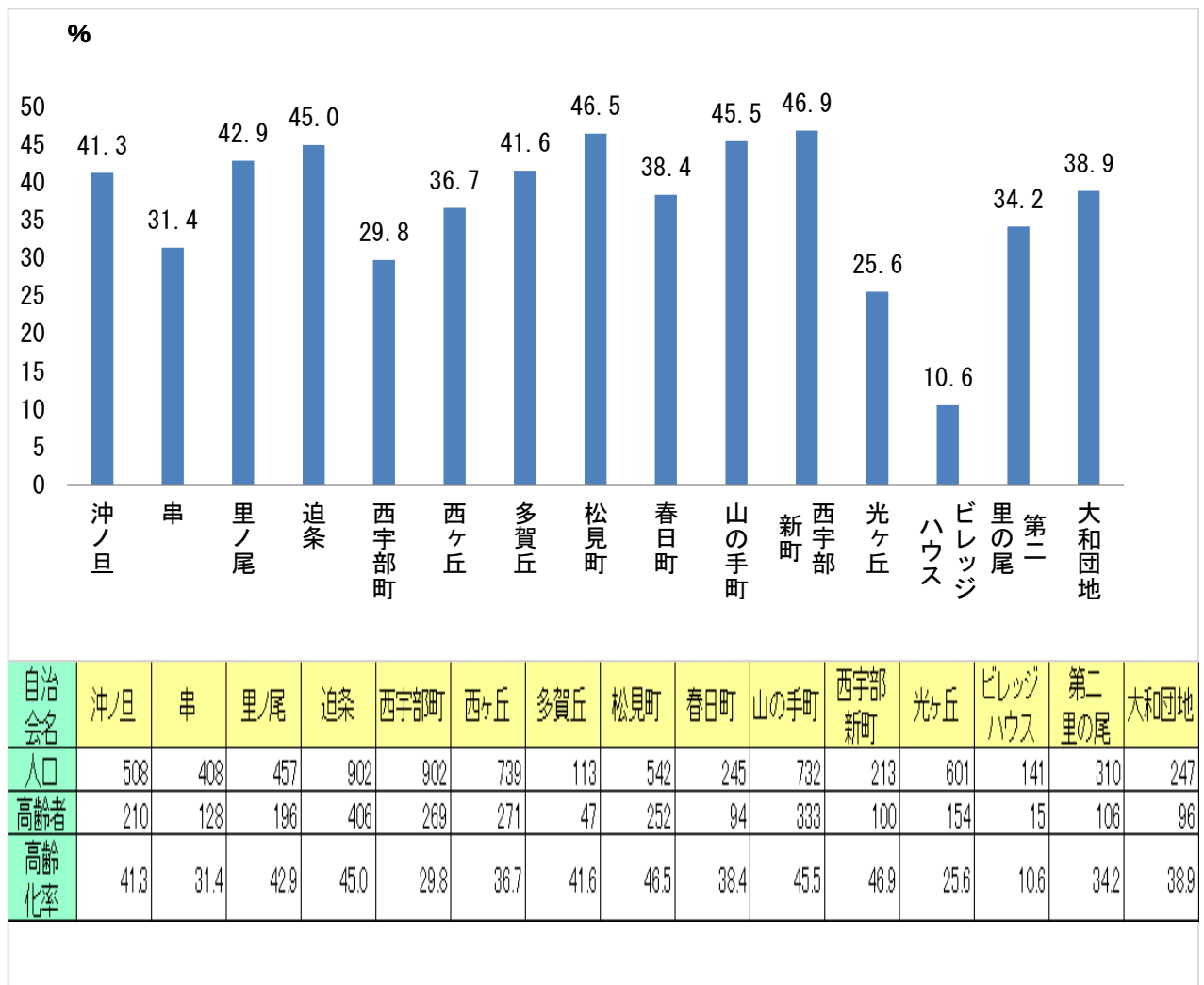
総人口・年少人口・生産年齢人口は年々減少を続けている。
高齢化率は上昇を続け、令和4年には37.54%になっている。

(2) 世帯の状況

	平成27年3月31日	令和4年3月31日	7年間の増減
総人口の動き	7,725 人	7,133 人	592 人減
世帯数の動き	3,450 世帯	3,485 世帯	35 世帯増
世帯構成員数	2.24 人	2.04 人	0.20 人減

人口の減少は続いているが世帯数はわずかながら増加しており、微速ではあるが核家族化の進行がある。

(3) 自治会別高齢化率（令和4年3月31日現在）



自治会毎に人口、高齢化率に大きな違いもあり、それぞれ抱えている課題も異なっている状況がある。

第2章 西宇部地区の現状と課題

1 現状と課題

(1) 地域コミュニティ（人間関係）の希薄化

- ・昔に比べて、近所に住む住民の中でも顔が分からない人が増えつつある。
- ・あいさつができていない事例も見受けられる。
- ・そのため多くの自治会や西宇部地区としても住民の交流をめざしたさまざまな行事を実施しているが、参加者の減少、主な参加者が高齢者を中心に固定化されているという悩みがある。

(2) 高齢化の進行

- ・西宇部地区全体では過去7年間に高齢化率が7.2ポイント上昇した。これは、住宅団地ができた当初に転居してきた人が年々高齢者となっていることと、新たな住宅団地等の開発も少なく若い人の転入が少ないことが、高齢化率の上昇の原因と考えられる。
- ・団地が開発された年代も関係して、自治会毎の高齢化率に大きな違いがある。
- ・高齢化が進むことはやむを得ぬが、元気な高齢者を増やす事が大切である。
- ・そのためには、元気な高齢者が活躍できる場を増やす必要がある。
- ・独居高齢者や高齢者だけの世帯も多く、ご近所の見守りも必要である。
- ・自家用車を使用せず、長時間歩行が困難な場合には買い物や通院なども不便である。

(3) 子どもの健全育成

- ・子どもの数の減少が続いている。
- ・子どもを安心して遊ばせる場所が少ない。
- ・育児について、どこに相談すればよいのか分かりづらい。
- ・シングルマザー、シングルファーザーの家庭や両親ともに働いている家庭では、子どもだけで過ごす時間が多く、目が行き届かないこともある。
- ・「子どもの貧困」について、支援しようとする側に実態が分かりづらい。

(4) 障害のある人への配慮

- ・宇部駅は令和2年3月にバリアフリー化したが、その他の施設ではいまだに整備出来ていない箇所も多く、施設管理者への働きかけなどにより改善を図るとともに、啓発の推進などにより障害のある人も暮らしやすい思いやりのある環境作りを進めていくことが必要である。

(5) 産業の振興・就業

- ・宇部駅近郊を中心に多くの商業施設はあるものの、地域ブランドと呼べるものは特にない。
- ・農産物については野菜づくりが中心であり、小規模経営者がスーパーや農協に地産地消という形で収めている。近時ぶどうの栽培等の動きもあるが、現在のところブランドと呼べるものは特にない。

第3章 まちづくりの方向性と計画

こうした課題を今後解決あるいは軽減していくためには、現在地区や各自治会で取り組まれている活動を一層強化することが必要になってきますが、限られた人材や資金の中で一層の効果を出すために、同じ目標を皆が共有し、多くの団体・個人が連携協力しながら進めることが望まれます。そのため、課題を絞り込み、柱建てをした上で、具体的なまちづくりの方向性について共有化を図ります。

1 柱建て

(1) みんなが暮らしやすいまちづくり

スローガン「 高齢者も障害のある方も、誰もが住みやすい、
心のふれあう思いやりのあるまちづくり 」

(2) 子ども達が健やかに育つまちづくり

スローガン「 子育てがしやすいまち、子ども達が元気に育つまちづくり 」

(3) 健康づくりに取り組むまちづくり

スローガン「 みんなが住み慣れた地域で健康でいきいき暮らせるまちづくり 」
～はつらつ健幸ポイントを使って元気になろう～

(4) 活力のあるまちづくり

スローガン「 いきいきとして にぎわいのあるまちづくり 」

(5) 安心・安全なまちづくり

スローガン「 事故や犯罪のない、巻き込まれないまちづくり
災害に強いまちづくり 」

2 具体的な行動

(1) みんなが暮らしやすいまちづくり

- ①コミュニティ（人と人との交流）の推進
地区のコミュニティ行事を継続し、参加者拡大を図る。
各自治会のコミュニティ行事や見守り目的の行事を推進する。
- ②バリアフリー化の推進
施設管理者に障害者のみでなく高齢者にとっても利用しやすい配慮を働きかける。
- ③元気な高齢者・障害者の活躍の場づくり
子どもの健全育成に向けた地域活動や集いの場づくり、スタッフとしての参加などの働きかけを行う。
- ④各自治会単位の見守り体制づくり
自治会役員、民生委員、福祉委員などが中心となり、「お元気だより」配付などを活用して、高齢世帯などの気になる世帯に対する見守り活動を行う体制を作る。
- ⑤歳末助け合い餅・カレンダー配付の実施
自治会の見守りを支援する意味からも、現在行っている歳末助け合い餅・カレンダーの配付を継続実施する。
- ⑥3世代交流いきいきスポーツ大会（グランドゴルフ）の継続実施
交流を図るだけでなく健康づくりと見守りを兼ねる 3世代交流いきいきスポーツ大会（グランドゴルフ）を継続実施する。
- ⑦いきいきサロンなどの「集いの場」づくり
自治会など身近な地域で、行事開催時のみでなく、恒常的に気軽に集える場を増やしてゆく。特に高齢化率の高い自治会から力を入れて取り組む。
- ⑧移動手段の確保、買い物弱者対策
主に自家用車を使わない人の買い物や通院など移動手段を確保するとともに、食料品などの日常必要な買い物の対策として移動販売車の導入、コミュニティタクシーの充実などを進める。
- ⑨啓発活動
「暮らしやすいまちづくり」に向けて、さまざまな場を活用して啓発を進めてゆく。

柱建て	具体的な行動	取組みの状況
(1) みんなが 暮らしやすい まちづくり	コミュニティ（人と人との交流）の推進	推進中
	バリアフリー化の推進	推進中
	元気な高齢者・障害者の活躍の場づくり	推進中
	各自治会単位の見守り体制づくり	推進中
	歳末助け合い 餅・カレンダー配布の実施	継続
	3世代交流いきいきスポーツ大会（グランドゴルフ）の継続実施	継続
	いきいきサロンなどの「集いの場」づくり	推進中
	移動手段の確保、買い物弱者対策	推進中
	啓発活動	常時繰り返す

(2) 子ども達が健やかに育つまちづくり

①見守り体制づくり

通学時の見守り活動など、現在ある活動の継続拡大に努め、新たな「子どもを地域で見守る体制づくり」にも取り組んでゆく。

②あいさつ運動の継続拡大

「あいさつ」の励行を広げてゆく。

③通学路の点検、定期的な見直し作業

学校や PTA と連携して通学路の安全確保に努める。

④子どもや子育て世代を対象とした地域行事の開催

現在ある行事に子どもや子育て世代が参加しやすい内容を検討する。

⑤子育てサロンなど集いの場づくり

主に子育て世代が気楽に集える場づくりに努める。

⑥子育てについて相談できる体制づくり

日頃から子育て世代との交流に心がけ、相談しやすい環境（間柄）を作る。相談があった場合に専門家に繋げるような体制づくりを行う。

⑦コミュニティスクールや地域協育ネットの推進

具体的な交流を一層進めることで地域と学校の連携を強化する。

⑧幼稚園や保育園、学童保育との連携

見守りの観点から、幼稚園や保育園、学童保育に対して地域として協力できる部分を探る。

⑨子ども 110 番の家、交番との連携

子ども 110 番の家の活用、交番との連携体制づくりを継続する。

⑩啓発活動

あらゆる場を活用して、子どもの健全育成に関わる啓発と情報発信を行う。

柱建て	具体的な行動	取組みの状況
(2) 子ども達が 健やかに育つ まちづくり	見守り体制づくり	継続
	あいさつ運動の継続拡大	継続
	通学路の点検、定期的な見直し作業	常時繰り返す
	子どもや子育て世代を対象とした地域行事の開催	継続
	子育てサロンなど集いの場づくり	推進中
	子育てについて相談できる体制づくり	推進中
	コミュニティスクールや地域協育ネットの推進	推進中
	幼稚園や保育園、学童保育との連携	推進中
	子ども 110 番の家、交番との連携	推進中
	啓発活動	常時繰り返す

(3) 健康づくりに取り組むまちづくり

①はつらつ健幸ポイントの普及、推進

はつらつ健幸ポイント*について知るための機会をつくり、普及に努める。各団体の事業登録や団体登録など健康づくりに関する取り組みを推進する。

②ウオーキングの普及・参加者拡大

気軽に集い、健康づくりに役立つウオーキングの普及に努めるとともに、現在あるウオーキング大会などの参加者拡大に努める。

③ラジオ体操の普及

家庭や地域の小規模な集まり等でも気軽に取り組めるラジオ体操の普及に努める。

④区民運動会、各種スポーツ大会の継続実施、参加者の拡大

すべての世代が参加できる内容を検討、参加者の拡大を継続して呼びかける。

⑤健康教室・体操教室の開催

地区として開催する教室、各自治会で自主的に行われている健康教室や体操教室などを拡大充実し、広く参加を呼び掛ける。

⑥食育の推進

健康な生活を送るために必要な食の知識や、体験を通して健康に対する興味や関心を育む食育を推進することにより心と体の健康を保つ。

⑦啓発活動

「自治会だより」など、あらゆる機会を通じて健康づくりをアピールする。

地域・保健福祉支援チームや同チームが発行する「お元気だより」を活用する

※はつらつ健幸ポイント

日々の歩数の計測、体組成測定、健康づくりに関するイベントへの参加を楽しみながら健康づくりを推進する取り組み。活動に応じポイントを獲得し、そのポイントを景品に交換できる。

柱建て	具体的な行動	取組みの状況
(3) 健康づくりに 取り組む まちづくり	はつらつ健幸ポイントの普及、推進	推進中
	ウオーキングの普及・参加者拡大	推進中
	ラジオ体操の普及	推進中
	区民運動会、各種スポーツ大会の継続実施、参加者の拡大	継続
	健康教室・体操教室の開催	推進中
	食育の推進	推進中
	啓発活動	常時繰り返し



健康づくりを目的に毎年行われる
西宇部地区チャレンジデー

4) 活力のあるまちづくり

①人材育成

まちづくりサークルなどの学級・講座・教室を活用してボランティアの育成に努めるとともに、地区行事や自治会の行事、児童健全育成、集いの場などに活躍の場を用意することで、次代をになう人材を発掘し育成に努める。

②JR 宇部駅の整備、駅前の活性化

JR 宇部駅の整備については継続して要望を行うとともに、駅前の活性化・簡易な整備について官民協働でできる策を考え、できることから実施する。

③西宇部ふれあいまつりの継続開催

地域一丸となって開催する西宇部ふれあいまつりは元気な西宇部の象徴であり、工夫を凝らしながら継続し参加者拡大に努める。

④どんど焼きなどの文化継承

「門松」や「しめ飾り」「どんど焼き」「雛飾り」など日本の伝統文化を継承してゆく。

⑤花いっぱいのもちづくり

人通りの多い所に優先的に花を植えるとともに、各家庭でも家の前に花を飾ることを推奨し、和めるまちづくりに取り組む。

⑥ごみのないまちづくり

美しい環境づくりについて啓発を継続するとともに、中川清掃活動など、地域の清掃活動を継続して開催する。

⑦文化の振興

地区や自治会での文化行事を継続して開催するなど文化の振興に努める。

⑧地元の特色ある食材、特産物さがし・PR 活動

比較的歴史の浅い西宇部地区ではあるが、PR すべき食材、産物などがないか検討を続け、外に向かって西宇部の良さをアピールする。

⑨地区の活動や活動する人達などの PR

地区の様々な活動や活動する人達などについても様々な媒体を使って PR してゆく。

⑩地域の資源である小・中学校、高等学校、福祉専門学校との連携

西宇部地区には小中学校の他にも 2 つの高等学校と福祉専門学校がある。これら教育機関を地域の資源としてとらえ連携をさらに図る。

柱建て	具体的な行動	取組みの状況
(4) 活力のある まちづくり	人材育成	推進中
	JR 宇部駅の整備、駅前の活性化	推進中
	西宇部ふれあいまつりの継続開催	継続
	どんど焼きなどの文化継承	継続
	花いっぱいのもちづくり	常時繰り返し
	ごみのないまちづくり	常時繰り返し
	文化の振興	推進中
	地元の特色ある食材、特産物さがし・PR 活動	推進中
	地区の活動や活動する人達などの PR	継続
	地域の資源である小・中学校、高等学校、福祉専門学校との連携	継続

(5) 安心・安全なまちづくり

①道路交通網の整備

JR 宇部駅周辺を中心として交通量が多く、安心安全の観点からも道路交通網整備の要望を継続する。

②交通安全教室・自転車の安全乗り方教室の定期開催

交通安全協会分会が中心となって定期的に交通安全教室を開催する。

③地区防災計画の策定

防災・減災に向けて、地区の防災計画を継続的に検討して、有事の際の役割分担や具体的な行動計画を明示する。

④地区防災訓練の継続実施

現在行われている防災訓練をさらに充実し、継続して実施する。

⑤自治会毎の防災マップづくり

自治会毎に防災マップを作り、危険個所の周知を図る。

⑥認知症になっても安心して暮らせるまちづくり

認知症の患者及びその家族が安心できるまちをつくるため、各種サポーター養成研修や、認知症 SOS 模擬訓練等の実施を進める。

⑦市への地区要望継続

市への地区要望である水害対策、道路整備、宇部駅前整備などを継続する。

⑧地球温暖化防止への協力

3R（リデュースー排出抑制、リユースー再利用、リサイクルー再資源化）の推進を継続して呼びかける。

ごみの分別収集を徹底する。

生ごみの水切り、段ボールコンポストによる生ごみの減少化を進める。

環境教育・啓発を進めるとともに、小中学校の環境教育に協力する。

柱建て	具体的な行動	取組みの状況
(5) 安心・安全な まちづくり	道路交通網の整備	推進中
	交通安全教室・自転車の安全乗り方教室の定期開催	常時繰り返し
	地区防災計画の策定	推進中
	地区防災訓練の継続実施	推進中
	自治会毎の防災マップづくり	推進中
	認知症になっても安心して暮らせるまちづくり	推進中
	市への地区要望継続	継続
	地球温暖化防止への協力	常時繰り返し

「取組みの状況」の説明

継 続 : 現在実施しており、今後も今の形態で継続する。

推 進 中 : 現在実施しているが、今後さらなる内容の改善を進める。

常時繰り返し : 啓発活動及びそれに係る行事の繰り返し。

第4章 計画の推進体制

この計画の推進については地区コミュニティ推進協議会及び自治会連合会が母体となり全体調整を行いながら進めます。

- (1) 事業の実施は以下の専門部会を設けて進める。
専門部会の構成団体・構成メンバーについては今後の協議で変更可能とする。
- (2) それぞれの専門部会は専門部の活動に関係の深いコミュニティ各団体で構成する。
- (3) 専門部会は定期的に調整会議を行う。
- (4) 調整会議には、構成各団体長の判断により役員以外の者を出席させることができることとし、会議を人材の発掘・活用にも役立てる。

専門部会名	対象の柱建て	構成団体名
暮らしやすい まちづくり部会	(1) みんなが 暮らしやすい まちづくり	社会福祉協議会 民生児童委員協議会 福祉委員協議会 人権教育推進委員協議会 高齢者連絡協議会
		自治会連合会
子ども部会	(2) 子ども達が 健やかに育つ まちづくり	社会福祉協議会 民生児童委員協議会 子ども会育成連絡協議会 ふれあい運動推進員会 子ども委員会 西宇部小学校 PTA 厚南中学校 PTA
		自治会連合会
健康づくり部会	(3) 健康づくりに 取り組む まちづくり	社会福祉協議会 民生児童委員協議会 福祉委員協議会 体育振興会 女性の会サン・Sun メイト 高齢者連絡協議会 母子保健推進員会
		自治会連合会
地域活性化部会	(4) 活力のあるまちづくり	社会教育推進委員会 まちづくりサークル実行委員会 ビビットにしうべ 厚南郷土史研究会 西宇部小学校 厚南中学校
		自治会連合会
安心・安全部会	(5) 安心・安全なまちづくり	環境衛生連合会西宇部支部 交通安全連絡協議会 防犯連絡所指導員協議会 民生児童委員協議会 福祉委員協議会
		地区自主防災会 自治会連合会

西宇地区 計画推進体制

西宇部地区コミュニティー推進協議会

暮らしやすい
まちづくり部会

子ども部会

健康づくり部会

地域活性化部会

安心・安全部会

自治会連合会

自治会連合会

自治会連合会

自治会連合会

自治会連合会

社会福祉協議会

社会福祉協議会

社会福祉協議会

社会教育
推進委員会

環境衛生連合会
西宇部支部

民生児童委員
協議会

民生児童委員
協議会

民生児童委員
協議会

まちづくりサークル
実行委員会

交通安全
連絡協議会

福祉委員協議会

子ども会育成
連絡協議会

福祉委員協議会

ビビットにらうべ

防犯連絡所指導員
協議会

人権教育
推進委員協議会

ふれあい運動
推進委員会

体育振興会

厚南郷土史研究会

民生児童委員
協議会

高齢者連絡協議会

子ども委員会

女性の会
サン・Sun メイト

西宇部小学校

福祉委員協議会

西宇部小学校 PTA

高齢者連絡協議会

厚南中学校

福祉委員協議会

厚南中学校 PTA

母子保健推進委員会

地区自主防災会